

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。</li> <li>2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。</li> <li>3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。</li> <li>4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。</li> <li>5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントについては講義内で提示します。本シラバスの「事前学習・事後学習」欄における○章とは、参考書での章を指します。 ・オフィスアワー等でも質問を受け付けますが、知識の共有のため、授業時間内での質問を歓迎します。		
10. 教科書・参考書・教材	資料は講義内で適宜配布する。 【参考書】 武藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 (著)『心理学』有斐閣。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し説明することができる</li> <li>2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識と心理学的視点を身につける</li> <li>3. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができる</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度(授業への積極的参加、授業のまとめ等のアサインメント)50%、試験(小テスト等を含む)50%として算出した合計得点により成績評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	心理学は、これまでに蓄積されてきた研究知見を、日常生活や社会活動に応用できる学問です。講義の内容から、自分自身や周囲の人々を理解し、今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、遠隔講義の場合や皆さんの理解度によっては講義内容を変更する場合があります。演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠りは減点の対象となります。 初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。来室相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読して本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。さらに、教科書の序章を熟読しておくこと。
		事後学習	講義で議論した「禁止事項」と、自分のもつ「常識」の感覚との差異について内観しまとめる。
第2回	心理学への関心と心理学の歴史	事前学習	専自身が「心理学」に対して持っている期待や関心を内観し、まとめておく。
		事後学習	配布したプリントにある、ヴントの功績とその後の心理学の歴史に関してまとめる。
第3回	心理学のイメージと学問としての心理学	事前学習	自分が「心理学」を学ぶことで「できるようになる」と期待していることをまとめておく。
		事後学習	講義で取り組んだワークから、「心理学の応用」にはどんなものがあるかを考え、まとめる。
第4回	感覚・知覚	事前学習	第3章 (pp. 55~78) のうち、Sec1、Sec2、Sec3 (知覚の恒常性)、Sec5 (文脈の効果) をまとめておく。
		事後学習	講義で挙げた keywords について復習するとともに、教科書 p. 78 の問題に取り組む。
第5回	欲求	事前学習	第9章 (pp. 192~211) 「動機づけ」についてまとめておく。
		事後学習	教科書 p. 211 の問題に取り組むとともに、達成欲求以外の欲求についても調べる。
第6回	学習	事前学習	第5章 (pp. 103~124) を熟読し、2種の条件づけの過程についてまとめておく。
		事後学習	教科書 p. 124 の問題に取り組む、条件づけの現実場面への応用について考える。

第7回	記憶	事前学習	第4章 (pp. 79～102) を熟読し、記憶の過程、記憶の種類 の過程についてまとめておく。
		事後学習	講義の最後に挙げる課題への回答を作成するとともに、忘 却に関する知見を調べる。
第8回	発達	事前学習	第11・12章 (pp. 235～261) を熟読し、ピアジェとエリク ソンの理論をまとめておく。
		事後学習	p. 280 の課題を通して、青年期以降の各段階における発達 課題達成の具体的方策をまとめる。
第9回	人格	事前学習	第10章 (pp. 214～234) を熟読し、「類型説と特性説とは何 か」についてまとめておく。
		事後学習	それぞれの節から見た自分について内観する。
第10回	心理測定	事前学習	これまでに受けたことのある性格テストにどんなものがあ るかを列挙する。
		事後学習	性格テストに関する留意事項をまとめ、科学的性格測定の 条件を再確認する。
第11回	社会 (対人)	事前学習	自分が人に好意をもつことになったきっかけにはどんなも のがあるかを列挙しておく。
		事後学習	講義内で学習した観点から、事前学習で挙げたきっかけが どれに当てはまるか整理する。
第12回	社会 (集団)	事前学習	目次で第13章～第18章の項目を読み、社会心理学の分野 を把握する。第13章の「互惠性」について学習し、p. 302 の②の課題に取り組む。
		事後学習	講義内で紹介された理論のそれぞれについて「名称」「その 内容」「応用方法」を含めた計400字にまとめる。
第13回	臨床 (ストレス)	事前学習	「健康とは何か」について自分の言葉でまとめておく (200 字程度。辞書は使わないこと)。
		事後学習	講義で学んだ内容を踏まえて、事前学習の内容を再度行い、 内省・比較する。
第14回	臨床 (心理療法)	事前学習	プロの臨床家ではない自分が「心の病に悩む人にできるこ と」の案をまとめておく。
		事後学習	講義で学んだ内容を踏まえて、事前学習の内容を再度行い、 内省・比較する。
第15回	科学としての心理学	事前学習	科学としての心理学に求められる要件とは何かを「統計学」 の知識も応用してまとめておく。
		事後学習	「客観性」と「再現性」とは何かを整理し、批判的思考の ために必要な考え方についてまとめる。
期末試験			